

つきがた 広報

No. 152

昭和57年7月10日発行
発行 / 新潟県月潟村役場
毎月10日発行 1部10円

人口動態	6月30日現在		6月中の移動	
	世帯数 812	人口総数 3,848	出生 4	転入 9
	(男 1,872)	(女 1,976)	死亡 0	転出 7



去る六月三十日、月潟保育園の運動会が行われました。当日は、天候にも恵まれ、園児たちも元気いっぱい。



とんだり、はねたり、「かけっこ」や「お遊戯」などに父母の方々と一緒に楽しい一日を過ごしました。

「生命の源」を大切にしていますか。 —— 八月一日は「水の日」 ——

水がわたしたちの暮らしに欠かせない大切な「生命の源」であることは、いまでも言うまでもありません。

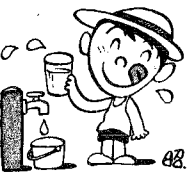
水道の水が止まったら、家庭で、学校で、病院で、工場で——わたしたちの生活はいたるところで立ち往生します。

ところが、こうした水の大切さを頭では理解していても、ふだんの生活ではまだまだムダに水を使っている面が少なくありません。

八月一日は「水の日」、この日から一週間は「水の週間」です。夏場は、一年のうちでも最も水を多く使う季節です。いま一度、暮らしの中の水の大切さを見直しましょう。

いま、わたしたちは、家庭でどのくらい水を使っているのでしょうか。

昭和五十年の全国平均で見ますと、一人当たり、百七十五リットルで、ビールびんに換算しますと約二百七十六本分に相当します。昭和四十年の一日一人当たり水の使用量は九十六リットル、ビ―



ルびん約百五十一本分ですから、十年間で約一・八倍と、二倍近くも家庭用水の需要が増えています。今後も家庭用水の使用量は伸びるものと予測され、国土庁の推計によりますと、一日一人当たり、昭和六十年には二百三十六リットル、六十五年には二百六十リットルと昭和五十年の約一・五倍になっています。

しかし、水道の水には限りがあります。そして、ダムによる水資源の開発には、水源地の人々の協力、多額の建設費、長い歳月が必要です。

つくられる水道の水——いまこそ、わたしたちは、ふだんの生活の中でムダのない合理的な水利用を実践していく必要があります。